

No.6 自転車のハンドルによる肝損傷

事例	年齢：11歳 性：女	
傷害の種類	打撲傷	
原因対象物	自転車のハンドル	
臨床診断名	肝損傷	
発生状況	発生場所	道路の歩道上
	周囲の人・状況	自転車に乗って走行中
	発生時刻	春休み中，午前8時50分頃
	発生時の詳しい様子と経緯	塾へ行くために自転車(いわゆるママチャリ)で歩道を中速度(約15Km/時)で走っていた。ハンドル(通常型)に掛けた傘が前輪スポークに引っかかって転倒し、左前腕を打撲するとともに、右腹部をハンドルの先端で強打した。3時間後、腹痛が持続するため某病院を受診し、腹部CTにて肝損傷を指摘されて当院救命救急センターに搬送された。
治療経過と予後	入院時現症は、脈拍数82/分、血圧132/76mmHg、呼吸数20/分、SpO ₂ 98%、体温37.0℃、意識清明(JCS0、GCS15)、胸腹部エコーによる出血スクリーニング(FAST)では異常がなかったが、腹部造影CTにて中心性破裂型(Ib)の出血を伴う肝損傷(図1)を認めた。造影剤の漏出は無く、貧血の進行やショックバイタルも認められなかったため、輸血やTAE(経動脈性塞栓術)、開腹止血は行わなかった。第2病日にも貧血の進行は認められなかったため保存的療法のみで19日目に軽快退院した(図2)。	

【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

1. 自転車のハンドルには物を掛けない。物がかからない、掛けにくいハンドルにする。前輪に物が挟み込まれないような構造(カバーなど)にする必要がある。
2. 狭い歩道を走行していたため、傘が何かにぶつかって前輪にはさみこまれた可能性がある。平成20年6月1日より施行された新道路交通法に従い、自転車専用歩道がない場合は車道を走る。
3. 自転車のハンドルの形状と腹部打撲の状況を正確に記録し、どのような機序で肝損傷が起こったか推測する必要がある。
4. 自転車のハンドルによる内臓破裂の事例を蓄積し、ハンドル先端部分の形状を改良する必要がある。
5. 自転車乗車中の頭部外傷を予防するため、ヘルメットの着用を推進する必要がある。



図1 入院時画像所見

肝S4に出血を認め中心性破裂型(Ib)と診断。造影剤の漏出なし。



図2 退院時画像所見